



聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

きこえにくい児童生徒への「座席」の配慮について

難聴の児童生徒にとって教室内で授業を受けるにあたり、「座席の位置」は基本的な配慮になります。子どもの聞こえの実態に合わせて配慮をお願いします。

- ① 先生の指示や表情が見えやすい場所、教室の全体が見渡せる場所になります。
具体的には教師の口元が逆光にならないよう、やや窓側から中央列までで前から2・3番目が適当です。
- ② 一側性難聴や片側の人工内耳の子どもには、聞こえやすい耳の方から声が入る座席になるよう、考慮することも大切です。
- ③ 少人数の場合には、机の位置を馬蹄形(Uの字)にして、お互いの口元が見えやすくし、コミュニケーションを活発にする配慮が必要です。



体育や遊びの時間など、補聴器の故障が心配である。

補聴器や人工内耳は、難聴者自身が「補聴器はなくてはならないもの」との自覚のもとに、本人が管理することが原則です。

日頃から補聴器の管理が十分でないと「きこえにくさ」の原因になりますので、十分注意が必要です。

また、補聴器は精密機器ですので「水(雨)にぬれること」「外部からの衝撃」などには弱く故障の原因につながります。そのため、補聴器が濡れた場合には「速やかに布などでふき取り、電池を外して乾かす」ことが必要です。

激しい運動(マット運動、柔道、水泳等)の場合には、その時だけ「補聴器を外して参加する」など工夫をされるとよいでしょう。



補聴器を持っているようだが、普段使用していないことが多いようです。

「補聴器を装用すると音がうるさい」「ききたくない音まできこえてしまう」「頭が痛くなる」などの理由で、補聴器をつけたがらない難聴児童生徒の声を多くききます。

補聴器を最適に活用するためには、「補聴器のフィッティング」が必要です。

「フィッティング」とは、補聴器の選択、補聴器の音の入れ方の調整、補聴器からの聞こえの確認、その音が装用者にとって適当な音なのか等、細やかに音へ評価を行うことです。どのような場面で不快に感じるのか、本人に丁寧にきき取ることが、補聴器の改善につながるヒントになります。これらの「不快な音へのきき取り」「フィッティング」を細やかに行うことで、音への不快感が軽減されるようになり、補聴器を通してきこうとする姿勢や、装用習慣の改善につながると思います。

他に「補聴器をじっと見られる」「補聴器をしていると特別に見られる」等の理由から、補聴器装用を拒否する子どももいます。「難聴者」としての自分にどう向き合っていくかが課題になると思いますので、丁寧に話し合っていく必要があると思われます。

